

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院内内分泌代謝科と間脳下垂体外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2011年1月1日 ～ 2017年11月30日の間に、間脳下垂体疾患のために虎の門病院内内分泌代謝科に通院し、入院検査・治療を受けられた方

【研究課題名】

卵胞刺激ホルモンが体組成に及ぼす影響についての検討

【研究の目的・背景】

《目的》

卵胞刺激ホルモンが体重や骨密度とどのような関係を持つのかを明らかにすること

《研究に至る背景》

卵胞刺激ホルモン(Follicle stimulating hormone, FSH)は下垂体前葉から分泌され、卵巣などの生殖器に存在しているFSH受容体(FSHを受け取る場所)に結合することで、月経周期を作り出し、また生殖器の発達を促しています。よって性成熟にとって、FSHはなくてはならないホルモンです。一方でFSHの受容体は生殖細胞以外に脂肪細胞や骨芽細胞にも存在していることが知られています。なぜ生殖器以外にFSHの受容体が存在しているのか、その理由はわかっていませんでした。近年、FSHの受容体を欠損させたマウスやFSHの機能を抑制する抗体を投与されたマウスでは体重が減少し、骨密度が上昇したと報告されました。体内のFSHを調整することで体重や骨密度などの体組成に影響を与えることができる可能性があると考えられます。しかし、これはマウスの実験における結果であり、人間ではFSHと体組成の関係についてよくわかっていません。よって本研究ではFSHが体重や骨密度とどのような関係を持つのかを明らかにすることを目的としました。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2018年8月16日 ～ 2019年3月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 当院内内分泌代謝科・辰島啓太医師のもと研究終了後 5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

当院外へ診療情報を提供することはありません。

【利用する診療情報】

診療情報：検査データ、診療記録、骨密度検査の結果など

【研究代表者】

虎の門病院・内分泌代謝科・竹内靖博

【虎の門病院における研究責任者】

内分泌代謝科・竹内靖博

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2018年12月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 竹内靖博・辰島啓太

電話 03-3588-1111(代表)